



大雪

ゼリーナ・ヘンツ 文

アロイス・カリジェ 絵

生野幸吉 訳

岩波書店 1965年 2200円

スイスの山に住むウルスリとフルリーナの兄妹は、明日のそり大会のために準備をしています。ウルスリは、そりの飾りにする毛糸の房をもらってくるように、雪の中、妹をむりやりふもとの村まで使いに出します。苦勞して毛糸をもらったフルリーナは、帰り道で雪崩にまきこまれてしまいます。帰ってこない妹を心配して探しに出かけたウルスリは、雪崩で倒れてしまった大きな”あらしの木”（モミの木）の下から、フルリーナを助け出します。次の日、二人は、毛糸の房と倒れた”あらしの木”の枝で美しく飾ったそりで、そり大会に出場し、楽しく一日を過ごします。そして春になると、倒れてしまった木の代わりに、新しい”あらしの木”を植えるのでした。

スイスの山間の村の生活、自然の厳しさや美しさ、子ども達の喜び、悲しみがいきいきと描かれています。詩人のヘンツの文章に、現代の最もすぐれた絵本作家のひとりと言われるカリジェが絵をつけた、大型絵本です。美しく力強い絵からは清冽なスイスの山の空気が感じられます。画家としても著名なカリジェは、1966年に第1回の国際アンデルセン賞画家賞を受賞しています。シリーズには「ウルスリのすず」「フルリーナと山の鳥」があります。